

# 地域再生計画「地物が一番！」地産地消運動の推進による地域活性化計画の目標および成果 ＜地域再生基盤交付金(道整備交付金) 平成17年度～平成21年度＞

- 当地域は、水稻を基幹作物として、露地野菜、施設園芸、果樹、花木など、多様な作物が生産されており、世界的ブランドである「松阪肉」をはじめ、キャベツやナシなどの生産が盛んです。  
また、当地域の森林は人工林率も高く、特に松阪市西部は古くから県下有数の優良林業地帯を形成し、「波瀬林業」として全国的にも有名で、農林業は当地域の主要産業のひとつであり、本地域の活性化には農林水産業の活性化が必要です。  
このため、当地域の地産地消運動の展開や、県産品のブランド化推進などのマーケティング戦略や、農林水産物の安全供給を確保する体制の整備などを進めています。
- 当地域内には、県内における農林水産物の中核的流通拠点である「中央卸売市場」、全国初の木材コンビナートである県産材の総合流通加工基地「ウッドピア松阪」があり、地域で生産した農林水産物を地域で消費する地産地消運動の推進には、これらの施設の活用が不可欠です。  
地域内に広がる農地・森林と、「中央卸売市場」・「ウッドピア松阪」を、広域農道、広域基幹林道などの道路ネットワークで接続し、「地物一番の日」キャンペーンなどと併せて、地産地消運動の推進を図る計画です。
- また、松阪地域には、「松阪農業公園ベルファーム」、「五桂池ふるさと村」、「道の駅 奥伊勢おおだい」、「月出の里」、など、地域の農林水産物を提供する施設が点在しており、「五桂池ふるさと村」では、地元の高校生が運営する、地域の食材を活用したレストランをオープンするなど、独自の取組を行っています。  
これら施設を、広域農道、広域基幹林道、森林管理道などからなる道路ネットワークで接続し、地産地消運動の推進を図り、地域の活性化につなげます。

＜「地物が一番！」地産地消運動の推進による地域活性化計画の目標設定および成果(平成17年度～平成21年度)＞

		＜平成25年度＞
(目標1)「みえ地物一番の日」キャンペーンに参加する店舗数	(179店舗 → 210店舗)	400店舗
(目標2)農林道整備による拠点施設へのアクセス改善	(ウッドピア松阪へのアクセス時間の短縮 14分)	14分短縮
(目標3)「中央卸売市場」における取扱量の確保	(青果年間取扱量 79,802t → 76,067t)	49,594t
(目標4)「ウッドピア松阪」における取扱量	(原木年間取扱量 9万8千m <sup>3</sup> → 16万m <sup>3</sup> )	78,600m <sup>3</sup>